

# 稲・大豆作情報 (NO.1)

## 1. 水稻作況情報田の生育概況(8月13日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主稈 出葉数	葉色	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/15 18.1株/㎡	本 年	90.7	347	13.5	38.6	情報田の夢しずくの 出穂期は、8月16日 見込み。
		平 年	93.8	384	13.1	37.7	
		平年比	(97)	(90)	(0.4)		
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 18.1株/㎡	本 年	80.8	430	13.5	35.9	さがびよりは、まもなく穂肥施用時期を迎える。
		平 年	82.4	489	14.0	37.4	
		平年比	(98)	(88)	(-0.5)		
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/27 18.1株/㎡	本 年	62.3	690	13.5	39.7	
		平 年	71.3	613	13.8	40.6	
		平年比	(87)	(113)	(-0.2)		

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稻。

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる。

## 2. 水稻管理

### ○今週の水管理

- ・穂ばらみ期から出穂期頃までは稲の要水量が最も多くなるため、灌水の期間をやや長めとした間断灌水を心がける。
- ・中干しが強すぎる圃場が見受けられる。軽く足跡がつく程度とし、黒乾状態を保つ。

### ○病害虫の発生状況

- ・いもち病の発生は、一部地域で発生している。
- ・ウンカ類の発生は、現在のところ平年並~やや少である。2回目防除時期は、**8月26日~31日頃(第3報より)**となっている。この時期には稲体が大きくなっており、株元まで薬剤が飛散しにくいいため、防除後もトビイロウンカの発生量には十分注意し、発生量が多い場合は防除を行う。
- ・斑点米カメムシ類は、出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、**出穂 10 日前までに草刈りを済ませ、時期を逸した場合には除草しない。**発生が懸念される山麓部や河川敷付近等、例年発生が多い圃場では防除を徹底する。

草刈りの時期(目安)	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部さがびより・・・8/20頃まで	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除
ヒヨクモチ・・・・・・8/25頃まで	◎少発生：「乳熟期(出穂の約15日後)」1回防除

## 3. 大豆管理

7月3半旬播種のもの7~8葉期、中旬播種のもの6~7葉期ごろ、7月下旬播種で本葉4葉程度が展開している状況となっている。

### ○病害虫

- ・ハスモンヨトウについては、やや少発生となっているが、一部の地域では多発している模様。今後は、各地区に設置されているフェロモントラップ誘殺数や、圃場の白変葉の発生状況に留意し、防除時期を検討する。

### ○雑草防除

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル等で防除する。
- ・7月上旬に播種された大豆は、まもなく開花期を迎えるため、大豆バサグランの茎葉散布は控える。

畝間散布の場合は、  
収穫45日前まで散布可能

